

神戸市東灘区～西宮市上大市

● 歩行距離 / 12.4km ● 標準歩行時間 / 3時間06分 ※1時間4kmで計算しています



打出天神社

祭神は菅原道真。創建や由来は明らかではありませんが、天曆元年(947)北野天満宮に道真が祀られてからそれほど遠くない時期には、この地に祀られていたという説もあります。古くから交通の要衝として栄えた打出の地には、天神信仰が早くから伝わったと考えられます。

西宮神社

えびす宮の総本社として知られる西宮神社は、平安時代の終わり頃に鎮座したといわれ、古くは漁業や海上交通の神様として、後には商売の神様として尊崇を集めています。赤門(表大門)や神社を囲む大練塀は重要文化財に指定されているほか、多数の文化財があります。

甲山

夙川から北に甲山を望むことができます。山頂からは弥生時代の青銅器(銅文)が発見されているほか中腹には源頼朝塚があり、神功皇后が甲冑を埋めたという伝説やその山容と相まって神秘性をまもっています。山麓には、多数の重要文化財を有する古刹神呪寺があり、毎年5月18日の融通観音大祭では本尊如意輪観音坐像の開帳があります。

広田神社の「コバノミツバツツジ」群落

創建が平安時代以前にさかのぼる由緒ある神社で、天照大神の荒御霊を祀っています。平安時代末には歌合がたびたび催されるなど、貴族の尊崇を集めました。鎌倉時代以降は、神功皇后の外征の際に神威があったといういわれから武士の崇敬が厚くなりました。境内にはコバノミツバツツジが群生し(兵庫県指定)、3月後半には薄桃色の花を咲かせてツツジの名所となっています。

門戸厄神(東光寺)

厄除開運の厄神明王が祀られている東光寺。嵯峨天皇が厄年の折り、夢のなかで愛染明王と不動明王が一体となって災厄を払い、魔を退治する力を感じました。それを基に弘法大師がつくった3体の明王像のうち、1体が東光寺に祀られているとされています。

阿保親王塚

平城天皇の第一皇子・阿保親王が祀られているとされる塚。住宅地のなかにあり、周囲を石柵で囲まれています。直径約36m、高さ3mの円形の古墳で周濠が巡らされています。宮内庁で管理されているため公開はされていませんが、毎年12月には正辰祭が行われます。

夙川

六甲山地に発し西宮市南西部を南流して大阪湾に注ぎます。全長6.7km。「夙川公園」は桜の名所として有名で、「日本さくら名所100選」に選ばれています。西国街道は、阪神電鉄「香榎園」駅のすぐ南で夙川を渡ります。

漢織呉織伝承地

西国街道からすこし東に外れて阪神電鉄本線北側に漢織呉織伝承地があります。ここにあった古松には応神天皇の時代に中国「呉」国から渡ってきた漢織(あやはとり)・呉織(くれはとり)が、ここで染めた織物を掛けて干したという伝説があります。そばの喜多向稲荷神社には織物の祖神織姫大明神が祀られています。

御輿屋伝承地

西国街道と札場筋が交わる角に御輿屋伝承地があります。西宮神社のエビス神鎮座伝説にちなむ故地で、漁夫によって海中から引き揚げられたエビス神が、現在の社地まで遷る途中、輿を置いて仮眠をとった場所とされています。

宮水井

西国街道より南、約500m四方の地域で汲み上げられる「宮水」は、酒造りに適した水として知られています。宮水の効能が発見されたのは、江戸時代後期のこと。現在も酒造会社が管理する宮水井から取水されています。一部は宮水庭園として公開。環境省選定名水百選。

西宮市立郷土資料館

西宮地方の歴史と文化財を、実物資料やジオラマを通して観覧できる博物館です。甲山銅戈や津門銅鐸・新酒番船入津繁栄錦絵、名塩紙漉きジオラマ・宿駅生瀬家並み模型・明治大正頃の市内名所絵葉書等を常設展示しているほか、特別展示、特集展示も行います。また、講演会・歴史ハイキング等を開催しています。開館時間▶10:00~17:00 入館料▶無料 休館日▶月曜・年末年始 ☎0798-33-1298

★印の寺社・施設等の位置は地図記載エリア外です。HP、電話等でご確認ください。